

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0172900250		
法人名	有限会社 環境設備		
事業所名	グループホーム プランタン		
所在地	旭川市東旭川町上兵村464-1 (電話) 0166-36-3937		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (21年 1月 19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	33 人	常勤14人, 非常勤19人, 常勤換算17.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての 全階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 21,000 円
敷 金	無		円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月30日現在)

利用者人数	24 名	男性 11 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	11 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.2 歳	最低 69 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック、東郷整形外科医院、林歯科医院、他
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、全国的に観光スポットの名をなす旭山動物園近くで、農家が点在する地域に位置しており雄大な自然環境に恵まれている場所にあります。利用者はホーム隣接の有料老人ホーム、デイサービスの利用者との交流が楽しみのひとつとなっています。人材の育成にも力を入れており、ホームヘルパー養成校も開校しています。各居室にトイレ、キッチンが完備され、約23畳と広くご夫婦で入居されている利用者が多いのが特徴でもあり、「施術サービス」が無料で行なわれ、身体機能の維持に向けての支援が積極的に行なわれるなど、ホームの大きな特徴と言えます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、11項目の課題の取り組みがありましたが、「わかりやすい理念の創造」「全職員が参加する自己評価づくり」「市町村との連携」「運営推進会議の定期的な開催」「面会簿の改善」など、改善及び改善の兆しが視えるものの、未着手などのものがあり、今後の果敢な取り組みが期待されます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組みは、ユニット毎に職員全員が参加して、日常のサービスへの振り返り、気づきが記述されており、自己評価への関心の高まりが感ぜられますが、一部に昨年の外部評価の文言をそのまま引用したり、外部評価のための一過性も視えるため、自らのサービスの向上に向けた継続した実践こそ重要と思慮します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の定期的な開催は、年間4回の開催が見られるなど改善の兆しが見られますが、メンバーの大半を職員で占め、外部の人たちが少ないなど、運営推進会議の設置要件が欠けています。最近の会議では、家族を含め外部のメンバーの出席が減少の傾向にあり、会議の内容及び外部のメンバーの柔軟な招致による活性化が求められます。また、自己評価と外部評価での取り組みを会議に開示しながら、取り組みへの進捗状況について、モニター役を担っていただくことこそ大切と思慮し、積極果敢な取り組みに期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時の会話や電話などで意見や要望、また苦情を収集する姿勢は視えます。また、家族からの意見等を聞きだすため、玄関内に「ご意見箱」の設置が見られますが、利用度は少ない状況下にあります。懸案である家族への「おたより」を早期に作成し、家族とのコミュニケーションを十分にとるなど、家族と一体となった利用者のためのホーム作りを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣は農家が点在しているなど、地域活動には制約があるものの、町内会に加入して地域の行事に参加するなどの努力により、徐々に地域とのつきあいは増加の傾向にありますが、ホームが地域との支えあいによる関係作りでは十分といえません。町内会向けの会報による広報活動で、ホームの行事紹介を始め、高齢者の福祉への啓発、災害時の協力体制など幅広い交流への環境作りが期待されます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の運営理念に代わり、職員が参加して作られた理念は「住み慣れた地域で安心した生活への支援・・・」が謳われるなど、利用者と家族、また、サービスに携わる職員が分かり易い簡潔な内容となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念に向けた実践を図るため、日々のミーティングなどで繰り返し共有を図りながら、取り組みが行なわれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの近隣は、農家が点在するなど、地域的な条件と制約がありますが、町内会に加入して行事に参加するなど、徐々にではありますが地域との付き合いの高まりは視うことができます。しかし、ホームの建物自体に「グループホーム・プランタン」の名称表示がないなど、地域に向けた啓発や開放的な施策には十分ではありません。	○	家庭には表札がありますが、ホームにも表札による名称表示が必要です。また、グループホームの社会的な信頼を得るための啓発は必要であり、継続した地域への広報活動も期待されます。地域とのコミュニケーションの中から災害時の協力体制が生まれるものと思慮し、それら取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の取り組み課題である自己評価の作成は、ユニット毎で職員全員の参加により作られており、課題への取り組みの成果が見られます。一部に昨年の外部評価の文言をそのまま引用しており、また、外部評価のための一過性の作業ととれる傾向が視えますので、あくまでも自らの日頃のサービスへの振り返りに役立てる手段との理解が大切であると思慮します。		

旭川市 グループホーム プランタン

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催も年4回を数えるなど、改善が見られますが、会議を構成するメンバーとして職員が大半を占める反面、家族や有識者、また、地域の方々の参加が極端に少ないなど、本来の運営推進会議の設置要件に欠けるものと思慮します。また、会議の内容もパターン化して柔軟性に欠ける傾向が視えます。	○	本来、職員は会議の進行と説明に徹するべきです。また、多数の職員出席の中では、家族を含めたメンバーからの良質の意見を引き出すことは難しいと思慮します。今後は、会議の内容とメンバーを柔軟に考慮しながら、外部の方々が参加しやすい会議運営を望みます。更に、評価の取り組みを公表しながら、進捗状況のモニター役を担っていただくことも重要です。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催して行なわれる研修会などに出席するほか、市の担当課職員と連携をとりながら、相談、指導をいただくなど、ホームのサービスの向上に役立てています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、来訪時や電話により行なわれていますが、前回も取り組み課題であった、「おたより」によるホームの状況や利用者の暮らしの報告などがまだ実行されていない状況です。	○	利用者の暮らしぶりやホームでの行事紹介、また運営に関する意見等の収集・啓発など、家族とホームの絆に必要な「おたより」は発刊が急がれます。利用者のプライバシーに配慮しつつ、多くの家族が望んでいる利用者の暮らしの様子を知っていただく方策への取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、家族の来訪時や電話によるところが多く、その都度管理者に報告するなど、共有を図りながら対応してホーム運営に反映させています。玄関内に設置の「ご意見箱」は利用が少なく、今後、家族等が気軽に意見や要望が寄せられるよう検討が予定されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員が、早期に離職するなど昨年度は職員の定着に苦慮しています。現在は定着化の傾向にあり、職員は利用者への担当制ではなく、全ての職員が全ての利用者に対処し、馴染みとなることで、職員の離職によるダメージ軽減に努めています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に併せた研修会への受講機会を与えていますが、管理者など一部の職員に偏重が見られ、復命を兼ねた職員全員への周知も十分ではありません。また、計画的に研修会参加をさせるシステムも定まっています。	○	職員一人ひとりのスキルアップは、職場としてもバックアップしながら、ホーム全体のサービスの質の向上に反映させる必要があります。十分な復命とほかの職員への周知と反映など、共有を図る必要を思慮します。また、職員の経験や力量を考慮しながら、計画的に受講機会を与える取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催の管理者会議やケアマネジャー会議などに参加し、同業者の交流を深めながら情報の交換を行なっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホームでの暮らしが継続できるよう、家族と共に見学や宿泊などしていただき、不安解消に努めながら、サービスの提供を始めるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や現在の心身状況を把握しながら、少しでも豊かな暮らしの継続に努めています。職員にマッサージをしていただく利用者、豆料理など昔の経験を教えていただくなど、利用者と職員が支えあう関係作りが行なわれています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの生活歴を大切に傾聴に努めるなど、係わりを深めることで、利用者の思いや意向を把握して暮らしの支援をしています。また、把握が困難な場合は家族の協力をいただきながら、行動や目線などで把握し、利用者本位に検討することとしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居当時は、暫定的な計画を立てながらアセスメントを重点的に行ないます。アセスメントの記録、また、介護記録が整然と記入されて、家族の意見などを反映した利用者本位の介護計画が出来上がっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヵ月を期間として見直しが行なわれて作成されていますが、体調など状況の変化にあつては、医師や看護師の指導をいただきながら、家族、職員と情報を共有して、随時現状に合った見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望に応じて、かかりつけ医への受診送迎や美容院への送迎、特別な買物など、ホームの有する多機能性を柔軟に取り入れながら支援しています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診は継続して支援しています。また、ホームの協力医には24時間対応のほか、2週間に1度の定期健診が行なわれて、利用者の健康管理に努めています。訪問看護も徹底しており、ホームの看護師と連携しながら支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して、利用者や家族から重度化や終末期における意向を聞いており、状況によっては医師、家族、職員を交えた話し合いが持たれていますが、看取りの指針などの合意書類などの整備が十分ではありません。	○	入居時は勿論、状況の変化には繰り返し関係者の話し合いが必要であり、その都度共有を図りながら、書類の整備が求められますので、これら対応と取り組みを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格、尊厳を傷つけない配慮をしながらサービスの提供をしています。昨年、外部評価で課題となった面会簿はカード式に改善されています。また、利用者の情報公開表が作成されましたが、利用者及び家族からの承諾はこれからの作業となっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の生活リズムは作られていますが、利用者本位の暮らしをしていただくため、利用者の意向や希望を尊重しつつ、一人ひとりのペースに合わせた支援が行なわれています。		

旭川市 グループホーム プランタン

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって食事の時間は楽しいひと時であり、職員は一緒に食事を取りながら、寛いだ雰囲気作りをしています。利用者の中で、食事の下拵えや下膳など可能な作業をしており、職員は見守る配慮をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気の合った利用者同士が声掛けあって、ゆっくりとした入浴を楽しんでいます。週2回の入浴の設定はありますが、利用者の希望や状況に合わせた入浴が支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや役割りをしていたいただき、暮らしに張りのある雰囲気を作りながら支援が行なわれています。食事の下拵えや洗濯物たたみも役割りを持ち、また、カラオケやトランプ、将棋など楽しみへの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に配慮しながら、利用者一人ひとりの希望に沿うよう外出の支援が行なわれています。散歩、買物のほか、ホームで企画する動物園や紅葉見物、外食など少し遠出のドライブで、外気浴を多く取り入れながら、閉じこもり防止の支援が行なわれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットでの施錠は行なわれず、利用者は自由な行き来をしています。職員は利用者の行動を見守りながら鍵をかけない配慮をしています。居室では入居当初に施錠をする利用者がいましたが、現在では施錠のない開放された暮らしをしています。		

旭川市 グループホーム プランタン

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力と指導の下、年間2回の避難訓練が行なわれています。救急救命の現地訓練や夜間想定避難訓練も行なわれていますが、地域の住民の協力をいただいた訓練には至っていません。	○	利用者や家族の安心・安全への懸念のひとつに、災害時、特に夜間への対応があります。人手の少ない夜間では、地域の住民の協力が不可欠であり、住民が協力可能なマニュアルを作り要請するなど、綿密な体制作りを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列法人で構成される食事部会が利用者の希望を反映しながら献立を作り、食材の仕入れも行なわれています。大まかな摂取カロリーやバランスに配慮された食事が提供されています。利用者の体調を考慮された水分摂取も把握されて、毎日の支援が行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く長い廊下、開放感のある居間等、ゆったりとした空間となっていますが、若干家庭的な雰囲気欠ける傾向にあります。また、長い廊下に設置された手摺りは、高さやエンドキャップの配慮が不十分です。浴室に設えた広々とした浴槽は、今後、介護度が高まるなかで、職員の介助は困難な場面も生じることが危惧されます。ホーム全体が乾燥し過ぎて湿度管理が不十分です。	○	広い廊下や居間には植栽や装飾など季節感や家庭的な雰囲気のある工夫を期待します。廊下や階段の手摺りは75～80センチが高齢者には優しい高さであり改善が望まれます。また、浴槽に関しても介助の負担が益々増える傾向に鑑み、長期的な改善への取り組みが望まれます。冬季間の湿度管理は、インフルエンザ予防への対応に不可欠であり、湿度保持の対応と毎日のチェック体制を期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、23畳の広さで、ゆったりとした空間で暮らしが営まれています。利用者によっては使い慣れた家具や生活用品などの持ち込みが少ないため、家庭的な雰囲気に若干欠ける傾向も覗えますが、家族との相談により、できるだけ持ち込みを多くする働きかけも必要と思慮します。		

※ は、重点項目。